

旭川医大病院ニュース

一年を振り返って

長く、熱い一年

病院長 水戸 迪郎

一年は二百六十五日、開年以外は同じ日数である。この同じ日数を長く感ずる人と短く感ずる人、さまざまである。概して、加齢と共に一年は早くなると言われる。華甲を超えた、俗に言う還暦を過ぎた私も、一年一年の経過が早く感ぜられるようになっていたが、この一年に限っては、還暦なる文字に暗示をかけられ生まれ還ったせいにか、やたらに長い一年であった。

まず、昨年、病院長就任の挨拶に文部省を訪れた残暑厳しい長い一日に始まる。スプリングが無い固い椅子に業務部長と二人座し、旭川医科大学附属病院の現況、今後の対応および見通しにつき、応答を含めての約一時間半である。状況説明は

現実を述べればことすむが、今後の対応とその見通しとなると、現状の分析を十分検討した上での対応策を持たない者には、空虚な言葉の羅列にすぎなくなる。

科学的観察と考察が十分行われた学会での発表時とは天と地の違いであることが、口を動かす毎に心につき刺さった。防禦の手立てを矢い、受け身になった時の時間の経過ほど長いものはない。

何の拠り所もないのに、現状は「変わる」から「変える」と、自動詞から他動詞へと変化する。文字では「わ」と「え」の僅か一字の相違であつても、行動となると大変な違いとなる。能動的な行為と変革を求められることになるのである。

題字は吉岡元病院長
(編集)
旭川医科大学医学部附属
病院広報誌編集委員会
委員長
八竹教授(泌尿器科)

院長一個人の意識変革のみでは一人相撲であつて、「変える」には共同体の一人一人の共鳴と同調がなければならぬ。

就任挨拶文の一部を引用させていたと、「幸いなるかな、旭川医大病院に勤務する職員の一一人一人は有能で、かつ多才な方々の集りである」とある。長い一年を振り返ると、この一節が間違いでなかった

就任にあたって

ことが実証された。「自ら選んだ職業を介して、人様に還元する喜び」と誇りを持つ「職場環境」への立て直しが、限られた枠内であっても実現し、また、明るい希望を抱かせる状況となりつつある。

稼働率に一喜一憂した病院の運営状況、看護婦さんの充足対策、病院経営の改善：などはすでに旭川医科大学年報に記したので省くことにするが、医療を取り巻く周囲環境の悪化にもかかわらず、良い方向に歩み出したことは、一個人の喜びや安堵感ではおき、働いて多くの人々に新生の道が見出されたことになる。ここに改めて、御協力御支援



総合力のある循環器内科をめざして

第一内科長 菊池 健次郎

平成四年八月十六日付けで初代教授小野寺杜吉先生の後任として第一内科教室を担当することになりました

のほどに感謝するものである。暦が初秋を告げる九月に替わると、長く感ぜられた院長職のこの一年が終る。長いと言えば、渡辺淳一の医学サスペンス「長く暑い夏の日」なる長編小説がある。何時か斜めに目を通した、いらいらする物語である。早朝に脳死者が出て、腎臓を摘出し、車で輸送し、深夜に移植が終わるまでの一日の様々な人間ドラマが展開する。腎提供者が出なければ、また、輸送中の高速道路での交通事故がなければ、頭在化しなかつた人間関係や、ひとと手違いが起きると最新の技術も無用の長物となる。危険などを示唆したものであつたと記

私は昭和四十二年に札幌医大を卒業後、インターンとして一年間研修し、昭和四十三年四月に宮原光夫教授が主宰しておられました札幌医大第二内科に入局致しました。学生時代から循環動態、殊に水・電解質代謝に興味を持っておりましたので、この領域の臨床研究ができればと宮原教授に御相談申し上げたところ、当時この分野の研究をしている先生や指導して下さいる先輩がおります。しかし、教授の「君一人でその仕事をやり抜く」という覚悟がある

憶している。最新の医療技術を覚え、また最高の治療手段を持った医療集団である大学附属病院も、十五年余のようどみかからないひとつのきつかけから、正に無用の長物へと向かおうとした一年前、小説では一日で様々な人間ドラマが展開されたが、わが附属病院でも、振り返ると種々の事象が浮き彫りにされ、解決の糸口を求め続けた、長く、熱い一年であつたように思われる。

これからの一年は、病院職員の変わらぬ御支援と御協力によって、私自身も年齢相応に短いと感ずる年であつてほしいと念願している。

のなら頑張つてみたまえ」とのお許しが、出て、そのお蔭で今日に至るまでこの領域の研究を継続することができたという経緯であります。

また、宮原教授は大変臨床に厳しく、私自身も良き臨床医でありたいと願つておりました。そのためには臨床研究を充実し、自前の研究実績を疾患の成因、病態解明、診断、治療、予後判定に還元できればと考えてまいりました。それ故、これまでの私の仕事はほとんどが臨床研究によるものです。

具体的には、心拍出量、末梢血管抵抗、循環血漿量、細胞外液量、総交換性Na量、血漿イオン化Ca値、血清Mg値の測定、腎Na・K・Ca・Mg排泄率さらに近位尿管のNa再吸収の指標となる無機磷排泄率の計測、そしてこれら諸量の調節因子である腎血行動態、レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系、交感神経系、血小板 α_2 受容体の測定、腎ドパーミン系、プロスタグランジン I_2 系、昇圧及び降圧物値に対する血管反応性、副甲状腺ホルモン、血中インスリン動態の研究を手掛けてまいりました。そして、これら諸系の本態性高血圧症、二次性高血圧症、腎不全、透析患者な

どにおける高血圧症の成因・昇圧維持機構に関わる意義や加齢、高血圧病期、血漿レニン活性亜群、肥満の有無などの病態形成に寄与する役割について研究をしてまいりました。また最近では、急性心筋梗塞患者、狭心症患者、心不全患者の重症度、血行動態とCa・Mg代謝、交感神経・副交感神経機能、腎ドパーミン活性との関係についての研究にも歩を進めてまいりました。

今後は、旭川医科大学第

眼科企業努力

一内科が既に蓄え確立しております臨床や動物実験における実績に、私が進めてまいりました臨床的アプローチを加味、融和させ、これを冠、肺、脳循環に加え腎循環の臨床、研究に生かし、第一内科学教室を総合力のある循環器内科に発展させるべく、一歩一歩努力を積み重ねてまいりたいと考えております。今後とも宜しく御指導下さいませうお願い致します。



保坂明郎教授の後任として、七月十六日付けで、眼科学講座を主宰させて頂くことになりました。何卒よろしくお願ひ申し上げます。この紙面をお借りし、皆様へ一言ご挨拶申し上げます。想い起こしますと、私は昭和四十八年十一月旭川医科大学の一期生として入学し、同五十三年一月より本附属病院で臨床実習を始め

来られました。私は、第二代目の眼科長に就任して以来、日々、本附属病院において私の努力すべき方向性を自問自答して参りました。その結果、結論として、「眼科企業努力」の徹底した遂行を行おうと考えるに至りました。

私の申します企業努力とは、(一)患者さんへのサービスの励行と、(二)経営努力の両輪からなります。前者(一)は、とりわけ視力障害を有し、しかも高齢者が多い眼科患者の特徴を考えますと不可欠です。私は就任以来、外来では出来るだけ患者さんを動かさない(歩かせない)よう診察するシステムを、看護スタッフと共に考えつつあります。また病棟では医師並びに看護スタッフの両者が、時代に適合した高度な眼科患者看護の学習をする機会を(特に看護スタッフには講習会等に参加して頂き)出来るだけ多く持つ方向で努力を開始しました。勿論、患者サービスの根本は、医療の責任者である眼科医一人一人が良好な診療レベルを持つことにあり、そのレベル向上のため、我々自身が粉骨砕身することを忘れてはおりません。

後者(二)の経営努力とは、まず第一に、高い稼働率を維持させるための医師一着



マシネリさんを戻す

本年三月末に退官された牧野幹男教授の後任として、

獲スタッフ一体となった不
断の努力・協力(眼科はその結果、本年四月から五か月間の同率は九十六・七%となりました)と、第二に、将来必ずや集計されるであろう、外来・入院患者一人当りの正当な保険点数の請求努力であります。この第二点目に関しましては、大
学病院として聞こえが悪いと訝る方がおられることは充分承知しております。しかし、この点は、国立病院市立病院等の公的病院においても、今や日常の努力目標となりつつある現在、避けて通れない問題であるとの私案を持つております。大学病院としての、密度の濃い診療の証が反映される可能性があると考えます。我々の眼科学教室では、関連病院である公的病院における眼科診療には、既にこの点を徹底させております。以上、就任早々から、企業努力などと言った大それた御無礼なことを書きました。過去の歴史を鑑みて、後手後手にまわることなく、一診療科として精一杯の努力をするという、四半世紀に渡り眼科を主宰する私の不退転の決意として、お許し頂ければ幸いです。本院の「眼科」診療内容における特徴、宣伝等、アピール致したいことは、紙面の都合上残念ながら別の機会に述べさせて頂きます。本職は、私にはもとより身に余る重責ではありますが、母校附属病院の眼科診療に、教室員一同、皆様の御協力を得て全力を傾倒する所存でございます。皆様の一層の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

つばら実験動物を相手に移植免疫の研究に従事しておりました。

ほとんど臨床経験のない私と臨床検査医学との接点の第一は、本学着任以前に働いておりました血液センターにおける経験であろうと思います。安全な血液製剤を患者さんに使つてもらふためには、安全性をチェックする検査の方法、精度・感度等を十分吟味する必要があり、多数の検体をまわがえることなく、しかもスムーズに処理するためには、システム化も不可欠でありました。

血液疾患を有する患者さんの場合には、しばしば臨床の先生方と相談しながら輸血をすすめていかねばなりません。また、献血時に発見される肝炎ウイルスやHTLV-1のキャリアアに対しては、個々のデータをみながら健康管理を行つていく、キャリアクリニクにも参加してあります。

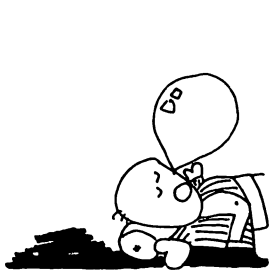
私が勤務してあります北海道赤十字血液センター(関口定美所長)は、最も先進的な血液センターの一つであり、その経験は私が臨床検査の領域に入りこんでいくうえで大変役に立つのではないかと考えております。

第二は、血液センター以前に約十年間勤務してあり

今号から、新シリーズとして、各診療科特有の世間で騒がれている病気の解説を掲載します。

睡眠時無呼吸症候群 第一内科編

あなたは家族から、「寝ている最中に息が止まっている」と言われたことがありませんか? 新聞、雑誌などでも話題になつておりますので、ご存知の方も多いかもしれません。睡眠時無呼吸症候群についてご紹介いたします。



「一晩七時間以上の睡眠中に、十秒以上続く呼吸停止が三十回以上認められ、文字どおり、夜間睡眠中に周期的に呼吸が止まってしまふ病気と考えていただいてよいと思います。臨床的には閉塞型(なんらかの異

いま、気になる病気、話題の病気

ました本学第二病理での経験であります。板倉克明前教授、片桐一現教授のもとで、疾患成立の要因を免疫遺伝学的に検討するという研究に従事しております。ある病気を有する患者の免疫遺伝学的背景から解析をはじめるといふ方法は、患者さんのデータ解析から疾患そのものの成立要因をしらべていくという、臨床検査医学の方法と相通ずるものがあります。

初代牧野幹男教授は、人も物もない開院当時から、大変な苦勞をされて今日の検査部を築かれたわけですが、我が検査部のスタッフは、技師長以下鍛え抜かれた精鋭ぞろいと聞いております。

しかし、牧野先生が本紙で述べられていたように、最近の検査項目数の爆発的な増加に対応するには、現状のままでは限界があります。その対応策として、可能なところから省力化自動化をすすめていき、余力を新しい分野にふり向けていく努力が必要ではないかと考えております。

常で気道が閉塞してしまうもの)、中枢型(気道閉塞の要素がないもので、呼吸をつかさどる脳・神経系に異常のあるもの)と、両者の要素をあわせもつ混合型の三型に分類されます。いずれの型にしても、一時的にせよ呼吸が止まるという事は、すなわち肺でのガス交換(酸素の体への供給)が不充分になり、低酸素血症をきたすわけで、さまざまな合併症をおこすことが

知られております。今回は比較的なじみの深い、閉塞型睡眠時無呼吸症候群についてご説明したいと思います。閉塞型の「閉塞」は、先に記しましたように気道(上気道)が閉じてしまうことを意味しており、耳鼻科的な疾患とも関連が深い病態で、扁桃腺やリンパ節の肥大、咽喉頭(のど)の腫瘍、生まれつき下あごの小さい方(小顎症)などが原因となることがあります。しかし、内科的に最も問題になり、普通の方に関係が深いのは、異常な太りすぎ(著しい肥満)です。少々古くなりますが、北海道出身のある横綱が体重が増加しすぎてこの病気になり、引退に追い込まれたことを思い出していただくとよいと思います。一般には、鼾(いびき)が大きいこと、息が止まること、寝ているときの体動が異常に多いことなどに家族が気付くことが多いのです。睡眠中の換気障害に関連した症状として、熟眠感がないこと、昼間の眠気、疲労感、集中力の欠如、頭痛、消化器症状などがあります。重い例では性的能力の減退をきたすこともあります。重い例では仕事や食事中でさえ居眠りをしてしまうようです。ある統計によりますと、自動車事故を起こす確率が七倍

であるとも言われており、社会的問題にもなりかねません。臨床的には、無呼吸の際に周期的におこる低酸素血症のため、多血症(酸素のうすい高地と同じことがおこります)や高血圧症、肺高血圧症、不整脈、心不全などがおこり、突然死の原因になるとも言われています。

睡眠時無呼吸症候群の診断は、疾患の性質上夜に行う必要があるため、当科でも呼吸器グループの医師を中心に夜を徹して行つております。終夜ポリソムノグラフィーは、脳波や筋電図などの睡眠段階の評価、鼻と口での気流、胸・腹部の呼吸運動や動脈血酸素飽和度の測定など呼吸のモニター、心電図などの循環動態をモニターして確定診断をする詳しい検査法で、閉塞型であるか否かの判定が可能です。最近ではスクリーニングとして、呼吸音と心電図を終夜にわたって記録できる睡眠時簡易モニター(アプノモニター)が使われるようになり、外来の患者さんでも比較的簡便に無呼吸を検出できるようになったため、検査をする立場の我々も随分と楽になりました。

治療とくに閉塞型睡眠時無呼吸症候群の治療は、原因となる気道の閉塞を防ぐことに尽きます。内科的に

は、過度の肥満の場合には減量が有効なことがあります。薬物が有効なこともあります。仰臥位（仰向け）から、側臥位（横になって寝る）になるだけで、無呼吸の回数が減ることがあります。外科的に肥大した扁桃の切除や、口蓋・咽頭形成術、気管開窓術を行って治療することもあります。

最近では、nasal C-PAP（経鼻的持続陽圧気道圧）といい、寝る時にマスクをしてもらい、鼻を通じて持続的に空気を送りこんで圧をかけて、気道の閉塞を防ぐ方法が用いられて効果をあげています。このように、閉塞型の無呼吸にはかなり改善の余地があるといえます。

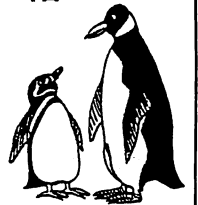
さて、今晚から早速、家族の寝息を聞いてみて下さい。なお、疲れた時やお酒を飲んだあとの軽い鼾は誰にでもあることです、念のため。

（第一内科 助手 松橋浩伸）



シリーズ 南極四〇〇日

長谷川 裕



2

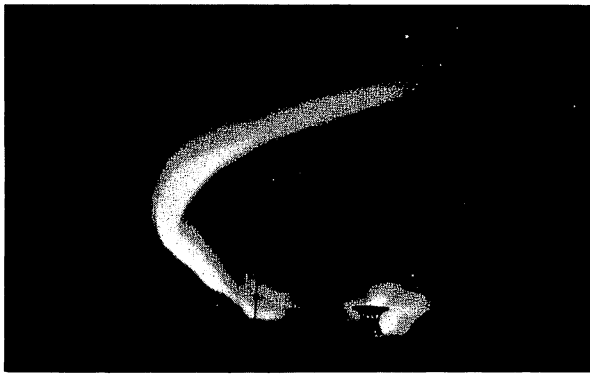
「越冬初日の試練」

平成三年二月七日、今日から三十一名の越冬生活が始まった。

一年間この昭和基地を守った、三十一次隊のメンバーは帰った。どこに何があり、どこがどんな機能をはたしているのか、たった一週間の引き継ぎだった。今日から一年間大丈夫だろうか？不安は的中した。この日、気温がプラス二

℃まで上がったため屋根の雪が融け出し雨漏りになり冷凍機の制御盤を直撃、火を吹いた。この冷凍庫は、我々が越冬するのに必要な五分の一の食料が保存されている。

復旧は、基地にあるだけの部品を使い、取り替え、合わない物は加工というやり方は無理に納めてしまうやり方で十二時間かかった。初日からこんな試練を受け、次期三十三次隊との越冬交代日がつもなく遠い日に思えた。



▲ミッドウインター前夜に連日アンテナ帯ーム

「快適なトイレ」 昭和基地は、昭和三十一年の第一次観測隊によって、

大陸氷縁から四km離れた南緯六十九度、東経二十九度の東オングル島に建設された。当時、南極観測のために開発されたブレハブ工法により建てられた四棟、百七十四㎡の建物で、十一名の隊員とタロ・ジロをはじめとする多くの機犬が越冬したのであった。

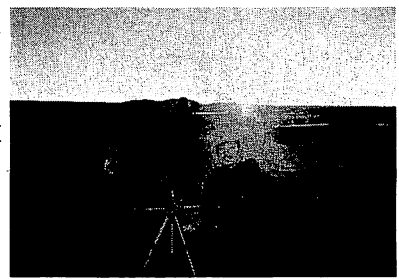
現在、基地は四十棟、約四千六百㎡まで拡張された。南極圏最大の衛星受信アンテナがあり、ロケット発射台設備があり近代化はめざましいものがある。

さらに、日本との連絡方法も近代化された。当時は電報が唯一の手段だったが、現在では衛星通信による電話、ファクシミリが二十四時間いつでも使える。

また、生活設備も充実され、二百KV Aの発電機が三台、そして雪を溶かして作られた二百トンの貯水槽があり、電気と水には不自由のない生活だった。

風呂は週二回、トイレは水洗でかつウォシュレットが備え付けてあり、寒地には最適であることを何度となく実感した。飲み水は、発電機の発熱

最後の太陽・明日からは一日中夜の世界になる。



を利用して凍らないように循環していてプラス二十五℃前後、二重のフィルタを通してあるので味気なく生温かい。南極では蛇口から冷たい水は出てこなかった。冷たい水を飲むには、プチプチと一万年前の空気の音がする贅沢な氷を浮かべて飲む。うまい。

基地の生活時間帯は、朝七時から朝食、八時から作業開始、十八時から夕食兼ミーティングとなる。

作業は、各観測（気象、電離層、地球物理、測地、雪氷、生物）を行う観測系と、観測を支援する設営系（機械、通信、調理、医療、航空、庶務）に分かれる。

太陽が水平線から顔を出さない六月一日から七月十三日までと、その前後一カ月を含む約百日間は、朝食と作業時間を一時間遅らせ

逆さま野菜装置で栽培された、岡山サラダ菜。



た冬日課という時間帯をとった。

南極でも暦どおり日曜、祭日には休日となった。休日にはブランチを十一時に取り、その後は自由時間だったが、ほとんどの隊員がデータ整理やワープロなど仕事の延長だった。

個室（二畳半）が割り当てられていたが、職場の一角なので落ちついた気分にはなれなかった。

仕事以外で各種生活係があった。娯楽が少ないので遊び心を取り入れた色々なおもしろい係があった。

誕生会など、とにかく飲み会を計画するお祭り係、昭和基地最大の日刊紙「夢大陸32」を発行した新聞係、最大の娯楽・映画係とソフトクリーム係の他にパー、農協、木工、ミシン、理髪、教養など十九係五サークル

があった。ちなみに私は、新聞、農協、漁協、郵便局そして、けん玉協会の会長をやった。

「太陽が出ない」

三月、四月に入るとブリザードの回数が増え、建物の陰にドリフトという吹き溜まりが出来、序々に成長していき冬が近いことを感じた。


五月末、だんだんと太陽の昇る時間が遅くなってきて、太陽が出ない時期を迎える。出ないと書いても真つ暗なときが延々と続くのではなく、昼前後に北の水平線が薄明となる。(昭和基地では、太陽は東から昇り北を通り西に沈むが、夏は頭の上をぐるぐる回つてこの時期、天上を踊るオ

ーロラと無数の星が美しくつた。真つ暗な世界に音もなく緑、青、ピンクの帯が一瞬の内に変化する。「虹のカーテンがゆらめいている」とは、うまく表現しているのだ。この感動は、どうにも口では表せられない。下手なカメラワークでオーロラを撮る。マイナス三十度以下の寒さで開いたシヤッターは凍り付き閉じなくなり、急いで巻き上げる

各国の基地も、この時は休み、太陽がない陰気なムードを祭りで吹き飛ばすのである。基地同士のお祝い電報のやり取りからも、どこも楽しんでる様子がある。昭和基地も歌、演奏、仮装、クイズ、スポーツ大会など楽しいひと時を過ごした。祭りだ、休みだ、と言つても調理は大忙し。祭りに合わせ初日は和食会席料理二十品、二日目はフランス料理フルコースを作つて盛り上げてくれた。

この調理を助けたものに野菜栽培装置があった。強い蛍光灯の光をはさんで上と下から芽が出るので「逆さ野菜装置」と言う名が付いている。三月には青野菜がなくなつて冷凍物しかなくなつたのだが、この装置

この調理を助けたものに野菜栽培装置があった。強い蛍光灯の光をはさんで上と下から芽が出るので「逆さ野菜装置」と言う名が付いている。三月には青野菜がなくなつて冷凍物しかなくなつたのだが、この装置

 <p>昭和基地新聞社発行 142号 1991. 6. 22 土曜日 編集担当者 Juliett F.</p>	今日の暦・予定	今日の空	今日の食卓
	日出..... 日没.....	天気 曇り 晴れ	昼: 昼夕: 特別メニュー 夕食: 特別メニュー 洋食749-3
◇ゲーム大会の結果◇			
<p>玉突: 村田 射撃: 中島(九居) 上野目: 藤野 射球: 前川</p> <p>和食フルコース</p> <p>なんと書いても賞品額の32回にとって最大の楽しみは、チナーであることは、言うまでもない。お平に考えたたわぶおやじの料理は圧巻であった。半時間かけて食事を楽しみたかった人もいたであろう。</p> <p>今日の晩飯洋食フルコースがまた楽しみだ。</p> <p>1今夜はオールナイト!</p> <p>テアトル32では、特別企画として ヨゴレ生体園 金魚高島 水体清浄島 の3本立てで上映された。</p> <p>水体清浄島を鑑賞された人は、本日の廣野大生体園にもつて参加できることである。明らかに、「まじめに生活しているひとは、明るい。このくさ白印が印象に残った。</p>			
九居の快挙			
<p>引き継ぎ会場をオングル中央記念体育館に移して行なわれた本誌大会九居の賞金ペア「J」(長谷川)組が優勝を飾るまでには前夜に優勝した。</p> <p>優勝は十、一三居特別ペア「春原・大島」組、三居はこれ十、一三居ペア「田中・村田」組であった。</p> <p>「国際大会に選ばれた九居が優勝を飾りつて「初めての九居」に立ち向かったことにながすべてストレート負け。九居の盛はいいようである。</p> <p>優勝ペアの一人長谷川組選手の経歴 「長谷川が村長の重宝上命であったし、レベル差は懸念していたので大した懸念はありませんが、僕の頭に大いさし記者会見でひんしゅくをかけた。</p>			
全キャラム全			
<p>キャラムは自然消滅したかのように思えたがどこに九居が隠れて居た。</p>			

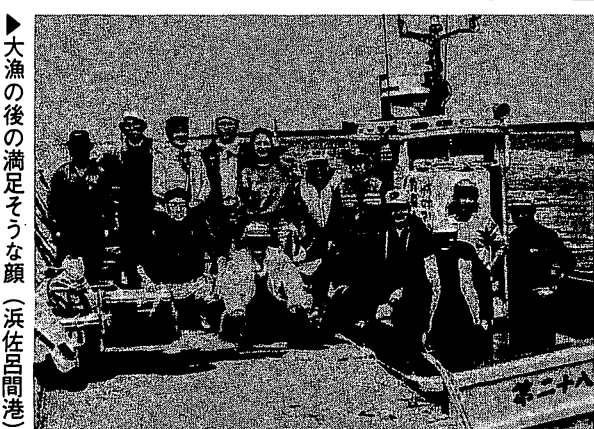
▲昭和基地最大の日刊紙「夢大陸32」

博覧会より寄贈)により二週間には一回はひとり三枚程度の新鮮なサラダ菜を口にすることが出来る。これは画期的なことであつた。この他に水耕栽培によるもやし、かいわれ大根が作られたが微々たる

七月十三日、風速三十mのあいにくのブリザード。久しぶりに太陽と対面できることを楽しみにしていたのだが、残念。

七月十七日、ブリザードは去つた。マイナス二十七度、午前十一時二十分、北の水平線に五十三日ぶりに真つ赤な太陽が出て基地全体を染めた。

隊員にも活気がみなぎる。(つづく)



▶大漁の後の満足そうな顔(浜佐呂間港)

食事、そしてアルコールには何ひとつ不満はなかった。アルコールは決して人には勧めない。過去に飲み過ぎにより外気と同じ廊下で寝込みあわや・という教訓から、我々も自己管理を徹底された。だからビール、酒をつぎ合う光景は基地では見られないのである。



◀ケーキもある誕生会

職員釣り同好会「海溪会」は、昭和四十九年に釣り好きの職員仲間達により発足しました。趣味と実益を兼ねたこの同好会は、発足当初から非常に人気があり、現在、宮本会長を頭に若者から釣り歴豊富なベテランまで二五名の会員が活発に活動しております。

年間の主な活動は、六月に第一回船釣り大会がサロ

マ湖沖で行われ、第二回目は九月初旬に国後島を眼前にした尾岱沼沖の釣りです。船釣り大会の対象魚はカレイです。カレイ釣りは初心者からベテランまで誰にでも出来るので大変好評です。また、食べても美味しいため家族へのお土産としても喜ばれております。

十月には、虹鱒・銀鱈・ヤマメを対象魚とした釣り堀大会が深川市音江町で行われます。この大会は、家族も参加出来るので、家庭サービシには最適です。この他にも豪快な磯釣り大会の計画も予定しております。

数日前から、「今回の釣り場は〇〇沖だから、竿は先調子のあれにして、仕掛けはこれ、針は

職員釣り同好会「海溪会」は、昭和四十九年に釣り好きの職員仲間達により発足しました。趣味と実益を兼ねたこの同好会は、発足当初から非常に人気があり、現在、宮本会長を頭に若者から釣り歴豊富なベテランまで二五名の会員が活発に活動しております。

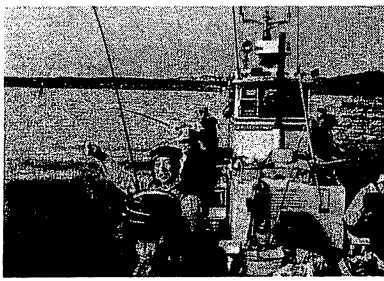
年間の主な活動は、六月に第一回船釣り大会がサロ

やはり毛針の〇〇号かな?」などと、家族の怪訝な顔をどまったく気にせずブツブツ呟きながら準備にかかるころから、すでに気持ちちは船の上である。

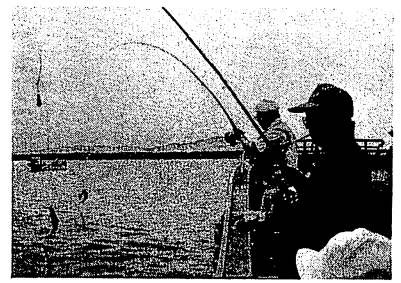
そうこうしているうちに数日は瞬く間に過ぎ去る夜である。すこし早めに集合場所に着くと、「よろしく」と弾んだ声に迎えられた。すでに大半の参加者が出発を今や遅しと待っていた。程なくマイクロバスは軽やかなエンジン音とともに一路〇〇港へと向った。

出発して数分後、バスの中では早くも酒盛り準備である。なぜか酒飲み集団の座席位置は、常に後部が指定席である。酒を酌み交わしながらなごやかに宴会がはじまった。酒飲みの自慢話が一段落する十二時頃には前部座席は既に仮眠体制であるが、後部座席はしぶ

▶サロマ湖沖にて



「ピー」船頭さんの合図で皆一斉に竿をおろす。竿先に全神経を集中し静かにアタリを待つことしばし。「クッククック」あの独特のアタリが手に感じる。軽くくあわせると「ググググググ」すごい手応えに全身緊張がはしる。慎重にリールを巻く。必死に抵抗しているカレイが濃紺の海中から姿を現した。慎重に扱った。40cmを超える超大物



◀釣れているのは黒ガシラ

とく飲み続けている。だが、午前二時を過ぎるとさすがの飲んべえ集団も仮眠に入り束の間の静寂が訪れた。平和な寝顔である。

「ついたぞー」の声で目を覚ます。飲み過ぎて少々頭は痛いが気分は爽快だ。早速釣り船に乗り込む。沖には薄い霧が出ているが天気も波も上々、最高の釣り日和である。

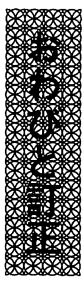
「情報整理奮戦記」



大脳のシナプス結合に支障をきたし、長期記憶領域のメモリーが「チョビ」になったのだらうか。講演原稿とスライド、出版原稿と付図、重要書類、文献などが、しまったはずの所にない。探すのに時間がかかり過ぎもつた。しかも、増え続ける仕事量をこなすためには、寝る間を犠牲にしても間に合わない。

楽しい時間は瞬く間に過ぎてしまった。快い疲労と満足感に浸っている釣り師たちを乗せ、バスは帰路についた。

(幹事 菊池久志)



本紙、第41号(平成四年六月二十五日付)二頁「麻酔科蘇生科誕生 麻酔科が名称変更」の中で、十六行目に「愛媛大学」とあるのは、岐阜大学の誤りです。おわびして、訂正します。

(広報誌編集委員会)

の環境を作り上げていけることと思う。OSを理解する必要も、コマンドを一定の手順で入力する必要もない。マウスで目的のマークをクリックするだけで、目的を達せる。しかも、ハード部分もソフトと同じ様にアップ・デート出来るので、新型が出現しても旧型を持つ負い目を感じさせない。アップ・デート・キットを購入すれば新型と同等性能になるのだから。

しかし、欠点も多い。あまりに要求度を高くすると、突然、爆弾マークが出て画面が凍りつき、入力中のデータはパーになる。それに「ああも使いたい、こうも使いたい」などの欲求を満たすためには、ソフトやハードを買ひ足して行かねばならず、思わぬ散財を強いられる「カネ食い虫」の一面もある。

これらの欠点も含めて、いかにもアメリカ的なおおらかさと懐の深さを感じさせるパソコンである。大好きになって傾倒するタイプと嫌いになるタイプとに分かれてしまうところが、また面白い。私は、マックが大好きになった。

さて、マッキントッシュの導入により私のQOLは向上したのだろうか。インプットした学会用講演原稿は無論のこと、データ、集

計、スライドまで全てハードディスク内にあり、探す手間はかからない。何処に持ち出しても紛失することもない。スライドもカラーになったし、プレゼンテーションの質は向上したと思う。重要書類はスキヤナーで入力するし、35mmカラーで入力するし、ビデオの画像も音声までも管理のメドがついた。データの一元管理という所期の目的は達成できた。

しかし、残念ながら時短に関しては、そのまま問題点として残った。つまり、二つのないを解消できた次の問題点を解決するため「あのソフトを買って、それから……」と、際限がないが出現するのである。仕事を遊び心の延長線上に置いて処理できるようになったおかげで、苦痛ではなくなったことが大きい。さらに重要なのは、マックを通して他科の先生方と親密になれたのが、他の如何なるメリットに勝る収穫であった。

さて、お次は、旭医マック・マッド・ネットワークなどは如何でしょうか? 私のQOLは向上したと自負している今日この頃である。

(整形外科 助教授 原田吉雄)